



「人間らしい仕事」に向けて ディーセント・ワークとは

- **公正なグローバル化** — 現在のグローバル化モデルは、人々が暮らす場所に十分な仕事を生み出していない。世界の成長を、特に若い男女に、より多くのディーセント・ワークの機会を提供するものに作りかえなければならない。
- **貧困削減** — 雇用創出と貧困削減は不可分に結びついている。仕事は貧困脱却への道であり、ILO憲章にも「一部の貧困は、全体の繁栄にとって危険である」と記されている。
- **保障** — 仕事のあるコミュニティは平和に暮らせるところである。このことは、地域社会、国、国をこえた地域、世界というすべてのレベルに当てはまる。
- **社会的統合** — 機会の平等を達成し、雇用におけるあらゆる種類の差別を克服することは、人々が能力を十分に発揮する上で不可欠である。
- **尊厳** — 労働は商品ではない。労働に対する費用は、人間の尊厳と家族の幸福の源となる仕事に対する対価を反映している。
- **多様性** — 政策は、それぞれの国に特有の必要性に応じて策定されなければならない。あらゆる状況に適合する万能薬は存在しない。

■ ディーセント・ワークの実現に向けた取り組み

ディーセント・ワークの実現に向けた取り組みは、4つの戦略目標の実行を通して実践される。ジェンダー平等は、横断的目標として、すべての戦略目標に関わる。

■ 仕事の創出

投資、起業、仕事の創出、持続可能な生計の機会を作り出す経済。

■ 仕事における権利の保証

働く人々の権利を認め、尊重する。すべての労働者、とりわけ不利な立場に置かれたり、貧しい労働者には、代表性と参加、そして、自分たちの利益のためになる良い法律が必要である。

■ 社会保護の拡充

安全な職場環境、適切な自由時間と休息、家族や社会的な価値観への配慮、所得の喪失や低下に対する適切な補償、医療へのアクセス、などの労働条件を確保することにより、社会的な統合と生産性を促進する。

■ 社会対話の推進と紛争解決

貧しい人々は、交渉の必要性を理解しており、対話が諸問題を平和的に解決する手段であることを知っている。独立した強い労使団体が関与する社会対話は、生産性を向上し、職場の争議を回避し、一体性のある社会を構築する上で、中心的な役割を果たす。

ILO: ディーセント・ワークを世界目標として掲げ、各国で実現する

ディーセント・ワークの全体的な目標は、国と地域社会における人々の生活に前向きな変化をもたらすことである。ILOは、政労使と協調して策定した統合的なディーセント・ワーク国家計画を通して、支援を提供している。この計画は、各国の開発枠組みの中で、優先課題と目標を定め、重大なディーセント・ワークの欠如について、戦略目標を含む効率的な事業活動を通して取り組むことを意図している。

ILOは、他の国連機関などとも連携して、詳細な専門知識や、これらの事業活動を策定・実施する上で重要な政策手段を提供している。また、事業活動を実施し、進捗状況を測るのに必要な制度の構築支援も行っている。それぞれの事業活動のバランス調整は国によって異なり、各国の必要性、財源、優先課題を反映している。

さらに前進するためには、世界レベルでの行動も必要である。ディーセント・ワークの実現に向けた取り組みは、世界の開発を推進する公正で安定した枠組みに基盤を提供する。ILOは、多国間システムとグローバル経済の主要機関や関係者（アクター）と連携して、社会経済政策に向けたディーセント・ワークのアプローチを開発すべく取り組んでいる。



■ 国際労働事務局 (ILO) 広報局

4 Route des Morillons CH-1211 Geneva 22
Switzerland

Tel. +4122/799-7912
Fax. +4122/799-8577
www.ilo.org/communication

ディーセント・ワークに関する詳細な情報（英語）はウェブサイトでご覧いただけます。
www.ilo.org/public/english/decent.htm



「人間らしい仕事」に向けて ディーセント・ワークとは

「今日、ILOの最重要目標は、自由、公平、保障、人間としての尊厳が確保された条件の下で、人々にディーセントで生産的な仕事を得る機会を促進することである。」

ILO事務局長 ファン・ソマビア

ディーセント・ワークの概念は、ILOの優先課題を明確にして、21世紀へのアプローチを改革するため、ILOを構成する政府、労働者・使用者団体により策定された。そして、比較的短期間のうちに、生産的な雇用とディーセント・ワークが、公正なグローバル化と貧困削減を達成する上での重要な要素である、との国際的な合意が、政府・使用者・労働組合・市民社会組織の間で形成された。

2005年の国連世界サミットにおいて、世界の指導者たちは、完全かつ生産的な雇用とディーセント・ワークを、関連する国内及び国際的な政策の主たる目的とし、開発戦略と貧困削減戦略におけるディーセント・ワークの中心的な役割を明記することに合意した。

2006年、国連経済社会理事会ハイレベル会合において、閣僚たちは、「飢えと貧困の根絶、すべての人の経済的・社会的福利の向上、すべての国家の持続的な経済成長及び持続可能な開発の達成、十分に包括的で公平なグローバル化を実現するには、すべての男女に、自由、公平、保障ならびに人間の尊厳が確保された条件下で生産的な仕事を得る機会が不可欠である」ことを再確認した。そして、国連機関及び金融機関に対し、完全かつ生産的な雇用とすべての人にディーセント・ワークを実現する目標を、その政策、計画、活動の中で主流化するように求めるとともに、現在、ILOが進めているディーセント・ワークを促進するためのツールの開発に、関係機関が共同して積極的に取り組むことを奨励した。

ディーセント・ワークに向けた取り組みは、現実の世界に根ざす実践的な取り組みである。ディーセント・ワークの基礎となる考え方は、仕事は、個人の尊厳、家族の安定、地域社会の平和、人々のための民主主義、生産的な職務や企業育成の機会を拡大する経済成長の源である、ということである。それは、異なる政策分野を連結する統合的なアプローチである。

ディーセント・ワークは、各国及び国際的な社会・経済・政治課題における多くの優先課題を反映している。



国際労働機関

■ ディーセント・ワークの欠如

今日の世界には、ディーセント・ワークの「欠如」が数多く見られる。それは、失業、不完全就業、質の低い非生産的な仕事、危険な仕事と不安定な所得、権利が認められていない仕事、男女不平等、などの形態をとる。とりわけ、多くの移民労働者たちは、搾取されやすく、代表性や発言権に欠け、病気や障害・高齢による所得の損失に対する十分な保護を得られていない。

ディーセント・ワークの欠如を示す指標として、以下のよう事実が挙げられる。

- 世界の労働者の半数は、自分と家族の生活を 1人当たり 1日2米ドルの貧困レベル以上に引き上げることができない。
- 世界各地で、雇用の質と量の双方において、大きな「男女格差」が見られる。女性は、男性に比べ、社会的保護の対象とならず高度に不安定なインフォーマル経済で働く傾向がある。
- 世界には8,500万人をこえる若年失業者（15～24歳）が存在する。若年層は就業年齢人口の25%にすぎないが、その失業者数は世界全体の失業者の約半数に相当する。
- 労働移動が増加している。世界には8,600万人の移民労働者があり、そのうち3,400万人は開発途上地域で働いている。
- グローバルな経済成長が、貧困削減につながるより良い新しい仕事を生み出すことが次第にできなくなっている。